

水族館月報

No. 147

1964年11月

11月の入場者数

一 般		団 体		有 料 合 計	特 別 観 覧
大 人	小 人	大 人	小 人		
6 5.4 8 7	9 8 0	2 4.9 2 6	1.5 4 0	9 2.9 3 3	5 7 7
前年度比	1 9 6 3	1 9 6 4	増 減		
入場者数	7 1.4 6 4	9 2.9 3 3	+ 2 1.4 6 9		

水族館記事

- ◎ 4日 堺浦のエビ網漁師から、巨大なモヨウフグ（全長60cm）が入槽。H水槽へ収容したが、先住のモヨウフグ（5月12日入槽、50cm）と猛烈な闘争のあげく、翌々日死亡した。先住フグも吻部に大きな噛み傷をうけ、前上顎骨の大部分と主上顎骨の一部が露出しているが、この傷は回復できる見込みである。
- ◎ 同日、みさき公園自然水族館より、アカウミガメの幼亀と交換で、マボヤ25個体が入槽。
別に採集してあつたシロボヤを加えて、この夏以来とだえていたホヤ類水槽をNo.20に復活。
- ◎ 7日 K水槽のヘダイ（全長45cm、入槽後2年10ヵ月）は、前額部に径2.5cmの腫脹ができ、化膿してきた。この魚は移槽時にしばしば暴れ廻り、頭部を強打して死ぬことがあるので、外科的治療は見合せ、一方症状がピブリオ病に似ているのに着目して、同槽を開放式にきりかえ、自然治癒を期待した。月末現在 病状の進行はとまっている。
- ◎ 8日～17日 近畿地方建設局の依頼で、国道改修にともなう海面埋立工事に関連しておこる漁業補償のための基礎資料を得るため、町内東富田、袋湾の動物資源調査を行なつた（布施・荒賀助手、田名瀬教務員、榎山技能員）。主な調査

対象はイセエビの現存量であつたが、その機会に、これまでほとんど潜水したことのない、同湾内外の海底を観察することができた。

その概要は次の通りである。

無脊椎動物：湾の中央部に *Acropora* sp. の群落 (3 m × 5 m) がある。湾内砂泥地一帯にはニセクロナマコが非常に多い。ヤギ類・ウミトサカ類は湾口部の岩礁地帯でも著しく少なく、20 m 以深でないで見られない。

魚類：上記 *Acropora* sp. の群落の中に、ナメラヤツコ、スミツキトノサマダイ、ミスジチヨウチヨウウオ、クマドリの幼魚が、また、湾外の岩礁では、サザナミヤツコ、タテジマキンチャクダイ、イツテンチヨウチヨウウオの幼魚が認められた。その他の熱帯性魚類相は、実験所近海とほぼ同様であつたが、湾口部南側の転石地帯に、大型のホンソメワケベラがとくに多いのが目立つた。

- ◎ 14日 先月、はじめて餌付けに成功したアオヤガラは、水槽が狭いため、捕食のたびに吻端を傷つけ、これが悪化して死亡した。新館の大型水槽で他魚と混養すると、摂餌をさまたげられるので、長期飼育のためには、ヤガラ専用の中型水槽 (150 × 100 × 100 cm 程度) を設けることがのぞましい。
- ◎ 16日 堺浦よりテングダイ4個体が入槽。本種は、もともと、すれに極めて弱いうえに、エビ網にかかつたものなので、これまでは、1度も生かすことができなかつた。今回の入槽魚のうち1個体は、マーキユロクロームによる治療が奏効し、月末現在餌付きはしていないが、F水槽で生存中。
- ◎ 19日 南浜防波堤附近で夜間磯採集を行ない、キミオコゼ (8 cm) 1個体を得た。本種は当館ではじめての採集であり、紀州沿岸からも正式の報告はされていない。
- ◎ 22日 雑賀崎漁師より、和歌山近海産のイイダコ30個体が入槽。Na11水槽へ収容した。
- ◎ 11月の動物入手概況

1. 採集作業

日時	採集場所	方法	人員	主な目的動物
5日午前	島島東磯・大蛇島	SCUBA潜水	2	ハタタテダイ・オオバササゴ
8日午後	円月島	素もぐり	1	オトヒメエビ
19日夜	南浜防波堤附近	夜間磯採集	2	潮間帯の動物
20日午後	塔島東水道	SCUBA潜水	4	熱帯性魚類
29日午後	塔島東～かなとこ	〃	2	〃
30日午前	塔島口磯	磯採集	1	小型巻貝類

前月にひきつゞき、近海の熱帯性魚類は、いぜん豊富である。また、網不知湾口で潜水採集し、内湾性のサンゴ類を補充した。

主な採集動物名（☆印は1962年4月1日以降はじめての入槽）。

無脊椎動物：キイロトゲトサカ、ユビノウトサカ、☆タバネサンゴ、オオバナサンゴ、ウミカラマツ、オトヒメエビ、ゴシキエビ、☆スベスベサンゴヤドカリ、☆レンゲウミウシ、☆ヒメコノハミドリガイ、スガイ、☆ハナヤカケボリ、ウノアシ、☆スソカケガイ、ヒメコウイカ、☆ガンガゼモドキ、☆クロボヤ、ミカンボヤ。

魚類：ムギイワツ、ヨコスジイシモチ、クロダイ、☆サラサハゼ、クロユリハゼ、コガシラベラ、サザナミヤツコ、ミゾレチヨウチヨウウオ、ハタタテダイ、ツノダシ、タスキモンガラ、アミメウマズラ、キミオコゼ、キリンミノ、ハシナガウバウオ。

2. 購入

雑賀崎一本釣、江川エビ漕網からは、ひきつゞき入槽中であるが、今月より堺浦エビ網の獲物も入りだした。また、有田市宮崎観光水産部（活魚トラックで持参）より、内湾性の魚類を若干購入した。

主な購入動物名

無脊椎動物：ハナシヤコ、マルソデカラツバ、ケアシガニ、ツノガニ、アカイシガニ、ノコギリガザミ、☆アカマンジュウガニ、☆メンガタオウギガニ、エンコウガニ、テングニシ、ピワガイ、ミミイカ、モンダコ、アカヒトデ、ベニイボヒトデ、イイジマフクロウニ。

魚類：ウチワザメ、シビレエイ、アミウツボ、イトトウダイ、マツカサウオ、ツバメコノシロ、シマアジ、イトヒキアジ、コバンアジ、スギ、オジサン、テングダイ、オオスジハタ、☆ヒゲソリヒゲダイ、キツネダイ、キンチャクダイ、モンガラカワハギ、ウスバハギ、ソウシハギ、モヨウフグ、ミノカサゴ、ガンゾウピラメ。

◎ 飼育概況

予備水槽R-1～5の白点病は、今月もまだ完全に駆除できず、新着魚類は展示水槽へ直接収容している状態である。俯瞰式では白点病の早期発見が不可能なので、予備水槽も側面ガラスをとりつけ、よく観察できるようにしなければならない。

一方、展示水槽では、ほとんど魚病の発生がなく、小型水槽の動物も、11月はもつとも飼育しやすい時期なので、魚類（271種）、無脊椎動物（259種）ともに、これまでの飼育種類数の記録を更新。総計で、はじめて500種の大台を突破した。

11月30日現在、飼育中の動物は、総計535種 4177個体以上で、その内訳は次の通り。このうち、観覧水槽に飼育・展示中の動物は502種 3850個体以上。

カイメン類	3種 6個体	ゴカイ類	5種 14個体	イカ類	3種 14個体
ヒドロ虫類	2" 24 "	カブトガニ類	1" 2 "	タコ類	3" 23 "
ハチクラゲ類	2" 2 "	フジツボ類	5" 352 "	ウミシダ類	4" 15 "
ウミトサカ類	8" 26 "	カメノテ類	5" 352 "	ヒトデ類	8" 107 "
ヤギ類	8" 80 "	エビ類	15" 155 "	クモヒトデ類	4" 8 "
ウミエラ類	1" 1 "	シヤコ類	2" 18 "	ウニ類	15" 123 "
イソギン チャク類	9" 92 "	ヤドカリ類	10" 131 "	ナマコ類	6" 30 "
イソサンゴ類	13" 70 "	カニ類	46" 358 "	ホヤ類	5" 68 "
ツノサンゴ類	2" 2 "	アメフラシ類	5" 10 "	軟骨魚類	10" 32 "
ハナギン チャク類	1" 12 "	二枚貝類	18" 181 "	硬骨魚類	261" 1604 "
ホウキムシ類	—" —"	巻貝類	54" 575 "	カメ類	3" 32 "
		ヒザラガイ類	1" 9 "		

資 料

11月の気象（午前9時観測）

才1水槽室（水温・比重はNo24水槽）

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数：25	7	9	9
室温（°C）	$\frac{17.4 \sim 21.0}{19.1}$	$\frac{15.7 \sim 17.2}{16.7}$	$\frac{14.3 \sim 17.9}{15.6}$
水温（°C）	$\frac{20.00 \sim 23.10}{21.91}$	$\frac{20.00 \sim 21.80}{20.95}$	$\frac{18.00 \sim 20.52}{19.34}$
比重（15°C）	$\frac{25.11 \sim 25.61}{25.37}$	$\frac{24.26 \sim 25.76}{25.35}$	$\frac{25.25 \sim 25.67}{25.54}$

才3水槽室（水温）

H水槽（°C）	$\frac{19.6 \sim 22.1}{21.0}$	$\frac{17.9 \sim 20.7}{18.9}$	$\frac{15.7 \sim 17.6}{16.6}$
T-8水槽（°C）	$\frac{20.2 \sim 23.0}{22.8}$	$\frac{20.0 \sim 21.9}{20.6}$	$\frac{18.7 \sim 20.3}{19.5}$

海水取入口

水温（°C）	$\frac{20.66 \sim 23.80}{22.38}$	$\frac{20.70 \sim 22.40}{21.31}$	$\frac{18.30 \sim 20.38}{19.50}$
比重（15°C）	$\frac{25.30 \sim 25.58}{25.43}$	$\frac{25.24 \sim 26.40}{25.69}$	$\frac{25.47 \sim 25.94}{25.68}$

昭和39年12月15日(No.147)

編集兼発行者 市 川 衛

発行所 京都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話 (白浜)2047.3515